



JSB1000
JAPANESE SUPERBIKE RACING CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE & Race 1 REPORT & INTERVIEW

決勝レース1表彰台 / 優勝:中須賀克行(中央)、2位:津田拓也(左)、3位:渡辺一樹

中須賀克行がダブルポールから11連勝を達成! 前人未踏の12連勝へも視界良好!! 2位争いからは誰が抜け出すのか!?

昨年は、10月に開催されていたが、今年は少し早い時期の開催となった岡山ラウンド。熊本地震の影響でオートポリスラウンドが中止となったことで、今回、JSB1000クラスは、2レース制となり、土曜日は、ノックアウト予選とレース1が行われた。天気は、朝から青空が広がリドライコンディションでタイムアタックが繰り返された。

まずは、公式予選Q1でレース1のグリッドとレース2の11番手以降のグリッドが、公式予選Q2でレース2の上位10番手のグリッドが決まる。40分間で行われたQ1では、絶対王者として君臨している中須賀克行が、3周目のアタックで1分28秒513をマークしトップに立つと、このタイムを上回るライダーは現れずポールポジションを獲得。2番手に1分29秒428で高橋巧がつけ、ようやくマシンがまとまってきたようだ。以下、津田拓也、野左根航汰、渡辺一樹が1分29秒台で続き、藤田拓哉、加賀山就臣、高橋裕紀、秋吉耕佑までがQ2に進出した。

15分で争われたQ2でも中須賀の速さは変わらず、真っ先にコースインすると1分28秒372をマークし、ダブルポールを獲得。何と12戦連続のポールポジションとなった。2番手に1分28秒台にタイムを上げた津田が入り、高橋巧も1分28秒台で3番手。久しぶりのフロントロウとなった。セカンドロウには、

Q1と同じく野左根、山口、渡辺が並び、加賀山、藤田、秋吉、高橋裕紀というQ2となった。この中に、Team GREENの柳川明の姿がなかった。柳川は、先週行われた事前テストの際、アウッドカーブ立ち上がりでハイサイドで転倒し負傷。今回は残念ながら欠場を余儀なくされている。

そして15時過ぎに行われた決勝レース。気温は、このレースウィークで一番暑くなり、路面温度も50度近くまで上昇した。スタートダッシュを見せたのは、ポールポジションスタートの中須賀だった。これに野左根が続き、津田、加賀山、高橋巧、藤田、山口、渡辺、秋吉と続いて行く。

「スタートダッシュを決めることができてよかった」とレース後に語るように、中須賀はオープニングラップから2番手以下を引き離すと、早くも単独体制を築き上げて行く。野左根の背後には、津田と高橋巧が、さらに渡辺が追い付き、4台での2番手争いとなって行く。レース中盤を過ぎると野左根と津田は何度も順位を入れかえ、小排気量クラスのようなバトルを繰り返す。このとき6番手につけていた山口も2番手争いに加わって来そうな勢いだったが、その後ペースが上がらず単独走行となる。

レース終盤を迎え、2番手のポジションを守っていた野左根だったが、決勝直前にメインカーにトラブ

ルが出てしまい、急きょマシンをスペアに切り換えてレースに臨んでいたが、5、6速で回転が上がらないトラブルに見舞われてしまう。野左根はだまじまじ走り続けていたが、津田と渡辺にかわされてしまい4番手に後退してしまう。後方では、ダンロップ勢最上位を走っていた秋吉が最終コーナーで転倒しリタイヤを喫している。

トップを走る中須賀は、集中力を切らさずに24周を走り切りポールtoフィニッシュで11連勝を達成!まさに圧巻の勝利だった。2位に津田、3位に渡辺が入り、表彰台に上がった。野左根は4位、復調してきた高橋巧は5位、山口が6位でゴールした。以下、藤田、中富、今野由寛、高橋裕紀、酒井大作、加賀山、近藤湧也、武石伸也、吉田光弘が続いた。

とにかく中須賀の強さは、群を抜いている。通算勝利や連勝記録など次々に更新されて行く中須賀の記録は、そのまま全日本ロードレース選手権の新たなページとなっている。「勝つ度に周りの期待が高まりますし、レースにはプレッシャーになりますが、そのプレッシャーを吹き飛ばすほどの努力はしていますし、それを楽しまくらいで臨みますよ」と中須賀。

絶対王者として君臨する中須賀が次々に打ち立てる前人未踏の記録は、果たしてどこまで伸びていくのだろうか!?



JSB 1000
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

決勝レース1:優勝
公式予選Q2:ポールポジション
1分28秒372
#1 中須賀克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『一発タイムもレースラップも、それほど差はなかったので、厳しいレースになると思っていました。連勝記録へのプレッシャーも感じていたのですが、周りを気にせずに、とにかく自分のペースで走ろうと思っていました。レースが始まると、路面温度がレースウイークで一番高かったこともあり、タイヤの摩耗が思ったよりも進んでしまって、自分の思っていたアベレージタイムを刻むことができませんでした。課題は残りましたが、結果を残すことができたのは簡単なことではないですし、チームスタッフの頑張りのおかげです。また一つ記録を伸ばすことができ、うれしいですし、明日につながる、いいレースになったと思います』



写真:決勝レース1

JP 250 Presented by **DUNLOP**

田中歩(インター)、笠井悠太(ナショナル)が優勝!

JP250クラスMFJカップシリーズの決勝レースは、ポールポジションの上原大輝がスタート直後に転倒の波乱。予選2番手の田中歩、同3番手の仲村優佑、同4番手の南本宗一郎の3台による激しいトップ争いを制した田中が優勝を飾った。



田中を先頭とするトップ争い

決勝正式結果(8周/上位15位)

●9月24日(土)予選・決勝 天候/晴 路面/ドライ 出走42台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	82	1	田中歩	TRICK STAR Racing	14'42.428
2	22	1	南本 宗一郎	AKENOSPEED-YAMAHA	14'43.022
3	88	1	仲村 優佑	アケノスピード-YAMAHA	14'43.071
4	20	N 1	笠井 悠太	TeamTEC.2&NCXXRacing	14'43.075
5	91	1	森 俊也	伊藤レーシング	14'53.261
6	40	N 2	西村 硝	TEAM TEC.2	14'53.275
7	19	N 3	久保直諒	Titanium Power&黒田屋	14'54.773
8	71	N 4	豊島 怜	Team NAP'S	14'54.911
9	44	1	MUKILADA SARAPUECH	AP ホンダ 56デザイン スポルト	14'54.969
10	23	N 5	砂泊 孝太	Spike&マーキュリー+idea.jp	14'56.412
11	30	N 6	前田 龍哉	伊藤レーシングGMDスズカ	14'56.734
12	97	1	佐野 優人	TEAM・BATTLE	14'57.434
13	37	N 7	井吉 亜衣稀	チーム 能塚	14'58.058
14	15	1	清水 保	Spike&マーキュリー+idea.co	14'58.070
15	34	N 8	小椋 華恋	キジマKISSレーシングチーム	14'59.195

J-GP2
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

石塚健が全日本初ポールポジションを獲得!!
「決勝はスタートから抜け出せればリードしていきたい」



石塚健

40分間で行われたJ-GP2クラスの公式予選。当初はここまで4勝を挙げている浦本修充がトップに立つが、水野涼が早々に1分32秒311に入れてそれを奪う。4番手にいた石塚健も32秒台に入れて2番手に浮上し、中盤に入ると生形秀之、國峰琢磨、浦本、作本輝介らの上位陣が続々と32秒台に入れてきて順位が入れ替わる。さらに石塚は32秒187をマークして遂にトップに立った。

終盤のアタック合戦では関口太郎も32秒590に入れて順位を大きく上げ、上位陣は32秒台でタイムを書き換えていく。しかし、石塚のタイムを上回るライダーは現れず、そのまま全日本選手権初のポールポジションを獲得した。

2番手には残り2分頃のアタックで32秒289を

マーク、1000分の5秒差で水野の32秒294をかわした作本が入った。若手の石塚、作本、水野がフロントロウ、セカンドロウには生形、浦本、関口のベテラン・中堅勢という予選結果となった。



作本輝介



ポールポジション:1分32秒187
#17 石塚 健
Will-RAISEracingRS-ITOH

『テストから調子が良く、決勝レースに向けてはセットアップも進んでいたのですが、レースに向けては自信がりましたが、テストで詰め切れていなかったため、予選のタイムアタックについては多少不安なところもありました。チームの皆さんに本当に一所懸命やっていただき、チャンスも作って下さったので、それを活かすためにも自分自身、本当に精一杯走りました。決勝はこのクラスでまだトップ争いをしたことがないので、不安もありますが、スタートから抜け出せればリードしていきたいですし、そうでなくても、しっかり周囲の状況に対応してレースを展開していきたいと思っています』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



榎戸育寛が全日本初、ポールポジション獲得! 「集中力を途切らせず、レースで勝ちたい」



榎戸育寛

ST600クラスの公式予選も40分間の1セッションで行われた。4周目に早くも1分32秒990のタイムをマークしてトップに立ったのは榎戸育寛だ。

前回SUGOでポールからスタートし最後に榎戸をかわして優勝を遂げた岩戸亮介が、33秒319で2番手、3番手にはこちらも前回SUGOで最後までトップ争いを展開した前田恵助が33秒390のタイムで続く。4番手にデチャ・クライサーが33秒823とここまですべて33秒台、チャランボン・ボラマイが34秒233で5番手、34秒468で亀井雄大が6番手。

セッションが後半に入ると、上位陣ではタイムを更新するライダーは現れず、結局ポールポジションは全日本初となる榎戸が獲得した。続く岩戸と前田

の、共にティーンエイジャーの3人は、前回SUGOでも激しいバトルを展開している。後続のデチャとチャランボンのアジア勢、さらに亀井らの若手もこれに加われば、決勝レースは激しいバトルになりそうだ。



岩戸亮介



ポールポジション:1分32秒990
#9 榎戸育寛
MOTO BUM HONDA

『事前テストは結構調子が良くて、一発のタイムもアベレージのタイムもいいところまでいっていたので、凄いいイメージでレースウィークに入ることができました。しかし、金曜日のドライの時にミスで転倒してしまい、今回の予選はマシンの確認から始める必要があったので、厳しい感じだったんですが、トップタイム、しかも32秒台にも入りましたし、決勝に向けてのセットアップもできたので、自分としては満足しています。レースは前回のSUGOでは悔しい思いをしているので、最後まで集中力を途切らせることなく、今度は勝てるように頑張ります』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

栗原佳祐が大逆転で今季3度目のポールポジション! 「チャンスがあれば逃げるレースをしたい」



栗原佳祐

土曜日、最初の全日本選手権の公式予選となるJ-GP3クラス、35分間の1セッションでの争いだ。

今季これまで3レースで、ポールポジションは栗原佳祐が2回、徳留真紀が1回と分け合っている。その二人がセッション終盤に激しくアタックを繰り返した。

セッション開始早々、伊達悠太が1分37秒994でトップに立つが、それを栗原がコンマ1秒上回る。赤旗で一旦中断したセッションが再開され、3番手にいた徳留がタイムアップ、37秒487をマークしてトップに浮上する。終盤、栗原が37秒405まで上げて再びトップに立つと、さらに37秒386まで更新。徳留が自身の最終周で37秒198をマークして栗原を逆転してアタックを終了したが、それを栗原がチェッカー周で37秒156と100分の4秒上回り、大逆転で今季3

回目のポールポジションを獲得した。

3番手は伊達が入り、セカンドロウには佐野勝人が38秒061、安村武志が38秒226、中村大輝が38秒279で並んだ。



徳留真紀



ポールポジション:1分37秒156
#634 栗原佳祐
MUSASHI RT ハルク・プロ

『事前テストは初日は少し苦労したのですが、2日目は苦労した分課題がはっきりしてセットアップがまとまったんです。しかし、ウィークに入って木曜、金曜と雨で、転倒も少しあったんですけど、完全ドライは土曜日だけでしたから、事前テストでのセットアップがまとまっていたことで、予選が形になった感じです。もう少しペースを上げたかったんですが、そこまでは届きませんでした。決勝前のフリー走行でしっかり走って、決勝レースに臨みます。(徳留さんとの)タイムは僅差で決勝で逃げることは難しいと思いますが、チャンスがあれば逃げるレースをしたいと思っています』

MFJ Superbike Round8 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA 24 - 25 September 2016 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走32台
●決勝レース2スタート/14:10(24周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'28.372
2	12	津田 拓也	ヨシムラスズキシェルアドバンス	GSX-R1000L6	1'28.617
3	634	高橋 巧	MuSASHi RT/ハルク・プロ	CBR1000RR	1'28.779
4	7	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'29.428
5	104	山口 辰也	TOHORacing	CBR1000RR	1'29.658
6	26	渡邊 一樹	TeamGREEN	ZX-10R	1'29.665
7	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'29.758
8	15	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'29.966
9	090	秋吉 耕佑	au&テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'30.852
10	72	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	CBR1000RR	1'31.582
-----以上Q2にて決定-----					
11	85	中冨 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'30.830
12	32	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000	1'31.048
13	39	酒井 大作	Team Motorrad39	S1000RR	1'31.193
14	34	近藤 湧也	GBSレーシング Mochizuka YAMAHA	YZF-R1	1'31.875
15	84	田村 武士	テイクアップOIRF	GSX-R1000	1'33.012
16	17	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'33.407
17	18	中津原 尚宏	オートテックニクススポーツPGR	CBR1000RR	1'33.465
18	14	武石 伸也	SYNCEEDGE 4413 Racing	S1000RR	1'33.664
19	20	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'33.702
20	66	筒井 伸	DOGFiSHオーテックズスカ	CBR1000RR	1'34.068
21	135	児玉 勇太	Team Tras 135HP	S1000RR	1'34.134
22	99	吉田 和憲	icu RT 大阪メビウス Navel Rose モトキッズ	YZF-R1	1'34.224
23	37	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000L3	1'34.781
24	27	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'34.842
25	77	田口 敏雅	チーム備前精機&バナナハンズ	YZF-R1	1'35.160
26	21	須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン	RSV4	1'35.510
27	117	久野 光博	ヒロノスポーツ&KTC	YZF-R1	1'35.552
28	35	古澤 幸也	RED SEED Motorrad	S1000RR	1'36.099
29	36	森 健祐	HondaブルーホールメットMSC熊本	CBR1000RR	1'37.136
30	67	和多瀬 邦治	DOGFiSH-オーテック鈴鹿	YZF-R1	1'37.325
31	93	矢木 清貴	備前精機 YAMANI RACING PROJECT	YZF-R1	1'37.793
-----以上予選通過-----					
32	59	濱原 颯道	HKC&IMT Racing	YZF-R1	1'56.480
-----以上Q1にて決定-----					

★JSB1000決勝レース2のスターティンググリッドは、公式予選Q2での予選結果となります。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走25台
●決勝スタート/10:00(19周)

Pos.	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	634		栗原 佳祐	MuSASHi RT /ハルク・プロ	NSF250R	1'37.156
2	36		徳留 真紀	CLUB PLUSONE	NSF250R	1'37.198
3	31	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250R	1'37.994
4	32	Y	佐野 勝人	犬の乳酸菌/プリミティブR.T	PRCS3a	1'38.061
5	8		安村 武志	犬の乳酸菌/プリミティブR.T	PRCS3C	1'38.226
6	50		中村 大輝	Honda Team Asia	NSF250R	1'38.279
7	11	Y	関野 海斗	Team P.MU 7C	NSF250R	1'38.291
8	18		山本 恭裕	チームライブ/ドリーム北九州	NSF250R	1'38.421
9	13		岡崎 静夏	UQ&テルル・Kohara RT	TSR3	1'38.546
10	12		菊池 寛幸	H43 Team-NOBBY&ワイリー	NSF250R	1'38.688
11	7		古市 右京	KTRACING.ASPIRATION	RC250R	1'38.695
12	15		高杉 奈緒子	41Planning	NSF250	1'38.709
13	10	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	1'38.955
14	500		Anupab Sarmoon	YamahaThailand RacingTeam	NSF	1'38.958
15	33	Y	長谷川 聖	CLUBY'S☆BATTLE☆J	NSF250R	1'39.119
16	410		宇井 陽一	41planning	TR004	1'39.148
17	41	Y	佐藤 勲	41Planning	NSF250	1'39.269
18	21	Y	中山 愛理	TEAM PLUSONE	NSF250R	1'39.392
19	26		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	TSR3	1'40.227
20	72		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM & MH OHARA	NSF250R	1'40.962
21	37		荘 安育	Shark factory aRacer	NSF250R	1'41.110
22	52		大塚 浩二	ホワイトレーシング+YERC	NSF250	1'41.190
23	39		金子 寛	ifレーシング AutoMac 翔天恭	NSF250R	1'41.400
24	99		白石 玲菜	Team Reina with O-TEC SUZUKA	NSF250R	1'44.622
25	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250R	1'46.473
-----以上予選通過-----						

本予選は、開始9分35秒時点で赤旗提示。残り時間25分25秒で再開した。
区分:Y=Youth
予選通過基準タイム (J-GP3:110%) 1'46.872 (J-GP3Y:110%) 1'47.793



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走46台
●決勝スタート/15:35(19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	9	榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'32.990
2	8	岩戸 亮介	Team高武 RSC	CBR600RR	1'33.319
3	5	前田 恵助	伊藤レーシングGMDズスカ	YZF-R6	1'33.390
4	2	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'33.823
5	65	Chalermpol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'34.233
6	43	亀井 雄大	Honda 鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'34.468
7	85	松崎 克哉	RS-ITOH&能塚	ZX-6R	1'34.504
8	73	名越 哲平	MuSASHi RT Jr.	CBR600RR	1'34.609
9	20	清水 尚輝	RS-ITOH	ZX-6R	1'34.742
10	14	伊藤 和輝	UQ&テルル・Kohara RT	CBR600RR	1'34.868
11	※23	津田 一磨	AKENO SPEED	YZF-R6	1'35.016
12	※41	田所 隼	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'35.016
13	74	奥野 翼	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-R6	1'35.050
14	52	岡村 光矩	RS-ITOH&FA.com保険職入	ZX-6R	1'35.198
15	104	江口 謙	TOHO Racing Club	CBR600RR	1'35.266
16	46	星野 知也	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'35.728
17	19	中山 真太郎	TEAMしんたろうwith KRT	CBR600RR	1'35.771
18	44	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	1'35.859
19	39	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'36.106
20	40	山元 聖	51ガレージチームイワキ	YZF-R6	1'36.170
21	27	森中 忍	GBSレーシング・YAMAHA	YZF-R6	1'36.172
22	28	北岡 慎也	伊藤レーシングGMDズスカ	YZF-R6	1'36.481
23	51	宗和 孝宏	51ガレージチームイワキ	YZF-R6	1'36.637
24	62	門馬 巧実	TOHO Racing Club	CBR600RR	1'36.638
25	42	名越 公助	GBSレーシング マツエ7 YAMAHA	YZF-R6	1'36.681
26	69	山内 芳則	YSSカワサキマキュー&TTS	ZX-6R	1'37.017
27	24	井上 拓海	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR600RR	1'37.066
28	76	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	1'37.205
29	106	大野 英樹	B~DASH106 Snail Racing	ZX-6R	1'37.211
30	91	喜井 勝弥	Team GRIFFON&池田モーターズ	YZF-R6	1'37.221
31	94	奥谷 真也	ちーむらお。モストリウム	YZF-R6	1'37.442
32	13	田尻 亮行	グリーンクラブ 能塚	ZX-6R	1'37.462
33	31	澤村 俊紀	HondaDream高崎B' WISE RT中央前橋	CBR600RR	1'37.510
34	36	定井 満	カメイRガレージA'井笠オート	ZX-6R	1'37.682
35	35	櫻井 賢一	HondaDream高崎B' WISE RT中央前橋	CBR600RR	1'37.804
36	86	森 賢哉	FATMAN RC甲子園 セビア	YZF-R6	1'37.805
37	60	宮脇 寿郎	保険職人SPEEDPartyファイヤワークス	ZX-6R	1'37.904
38	88	林 祥由	TEAM TECHNICA	CBR600RR	1'38.158
39	705	黒川 武彦	保険職人SPEED Party	ZX-6R	1'38.176
40	54	松下 幸司	[GRAND fine Racing]	CBR600RR	1'38.738
-----以上予選通過-----					
41	53	河端 清次	カワサキマキュー&ヒロノスポーツ	YZF-R6	1'38.954
42	48	村瀬 量	ifレーシング&モトテックRS	CBR600RR	1'38.978
43	61	梅島 豊	チーム備前精機&バナナハンズ	ZX-6R	1'39.014
44	83	宮脇 健二	Trip Trap&亀甲堂	YZF-R6	1'39.742
45	58	岩波 史人	チーム能塚	ZX-6R	1'40.716
46	114	福岡 勇二	TOHO Racing Club	CBR600RR	1'41.689

本予選は、開始20分23秒時点で赤旗提示。残り時間19分37秒で再開した。
※セクションNo.23,41の順位は、MFJ国内競技規則 付則4 ロードレース競技規則 15-2-4 (同タイム)を適用した。
予選通過基準タイム (110%) 1'42.289



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走26台
●決勝スタート/11:05(19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	17	石塚 健	Will-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'32.187
2	15	作本 輝介	Team高武 RSC	MD600	1'32.289
3	634	水野 涼	MuSASHiRT/ハルク・プロ	HP6q	1'32.294
4	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	1'32.438
5	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-prot071	1'32.478
6	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	1'32.590
7	55	國峰 琢磨	H43 Team-NOBBY	HP6-q	1'32.697
8	46	日浦 大治朗	MORIWAKI RACING	MD600	1'32.707
9	8	大木 崇行	MOTO BUM十虎の穴	CBR600RR	1'32.795
10	70	岩崎 哲朗	OGURACLUTCH with パワービルダー	ZX-6R	1'32.919
11	90	瀧美 心	au&テルル・Kohara RT	TSR2	1'32.941
12	81	上和 拓海	Webike チームブリックヤマハ	YN6	1'33.007
13	45	古山 碩太	MotoPodY'YSP名古屋西	YZF-R6GK	1'33.185
14	11	井筒 仁康	Will-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'33.343
15	392	長尾 健吾	ミクニ テリー&カリ	GSX-R600	1'33.352
16	10	佐藤 太紀	au&テルル・Kohara RT	TSR6	1'33.551
17	74	三原 壮紫	H43 Team-NOBBY	HP6-q	1'33.609
18	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	1'33.846
19	56	中本 都	SYNCEEDGE 4413 備前精機	HP6	1'34.150
20	31	岡本 裕生	Webike チームブリックヤマハ	YN6	1'35.188
21	30	高橋 頌	CLUB PLUSONE	HP6	1'35.665
22	32	Max Croker	チームヨシハル&K1Racing	FTR	1'37.423
23	19	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	1'37.964
24	22	朝比奈 正	アサヒレーシング	Z600	1'38.171
25	34	山内 宏之	立秋モーターズ&RC甲子園	YZF-R6	1'39.349
26	33	中尾 健治	R&Tサークル・YSP宇部	YZF-R6	1'40.287
-----以上予選通過-----					

予選通過基準タイム (110%) 1'41.406

INFORMATION



番組タイトル一新! 2輪・4輪全ての
モータースポーツファン向け番組

- 無料BSチャンネル「BS12トゥエルビ」でシリーズ全戦を放映!
- JP250「MFJカップシリーズ」全6戦のダイジェストを単独番組で3回放映!

★詳しい放映スケジュールはファンサイトで! (スケジュールが変更されています)

■第8戦スーパーバイクレース in 岡山
放映スケジュール

10月1日(土) 19:00~19:54



大きく変わったインターネットライブ中継!



サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラスし、新システムで「MFJライブチャンネル」にて配信。より充実した中継配信を目指します。※通信環境により配信となる場合もあります

YouTube

YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

